



1~3年が、スクールカウンセラーの尾崎先生からお話を聴きました

前回は、4~6年対象にお話をさせていただきましたが、今回は2月17日（火）の5時間目、低学年を対象にお話をさせていただきました。テーマは高学年と同じく「きょうかいせんについて」。「きょうかいせん」とは、「ここから先は踏み込まないでほしい」と思う限界のこと。このように感じるのは大切なことで、自分の心と体を守ることになるからとの説明がありました。「嫌なことは嫌」と言っていいのです。また、自分のきょうかいせんを守ることが大切なように、相手のきょうかいせんを守ることも大切。相手に聞いてみると、嫌がついたら離れる、急に触らないなど、子供たちからも適切な内容の意見が出されていました。これは、相手を尊重する・大切にすることそのものですね。貴重なお話を聞くことができました。



6年薬物乱用防止教室実施

2月18日（水）、6年生を対象に、本年度の「薬物乱用防止教室」を実施しました。毎年、この時期に、卒業を控えた6年生に対して設定している時間です。講師は本校の学校薬剤師である倉富先生です。小学校においては、下記の3点が目標となります。

- ① 喫煙、飲酒、薬物乱用の心身への影響について、急性影響を中心に理解し関心を持つ。
- ② 喫煙、飲酒、薬物乱用にかかる要因に気付き、喫煙、飲酒、薬物乱用をしないという意思決定や、行動選択の基本的知識を身に付ける。
- ③ 友だちや家族と喫煙、飲酒、薬物乱用の害について話すことができる。

薬物乱用について低年齢化が言われて久しく、ニュースにでもよく取り上げられることから、関心の高い保護者もいらっしゃることでしょう。子供たちには同調圧力が働きがちで、自分が心身共に弱っているときなど、「気分がすっきりするから」「みんなやっているから」と言わせて薬物やお酒、たばこに手を出す可能性がないとは言えません。依存症になってしまえば、自分の意思ではなかなかやめることはできませんし、若ければ若いほど脳や体に対するダメージは大きくなります。（「依存」ということで言えば、スマホやゲームも同じことが言えます）真っ黒になった肺の写真やその他の資料を見て、子供たちは神妙な表情になっていましたが、正しい情報をたくさん得ることで、自分の行動に慎重になってほしいと願うばかりです。万が一そのような誘いがあっても、きちんと断る勇気と知識を身に付けてほしいです。

